

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ヒメフラスコモ

Nitella flexilis var. *flexilis*

坂山英俊（神戸大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 藻類分科会



環境省 編

令和7（2025）年3月



この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：坂山英俊. 2025. ヒメフラスコモ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物.

Citation: Sakayama, H. 2025. *Nitella flexilis* var. *flexilis*. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook: Threatened wildlife of Japan*.

ヒメフラスコモ

Nitella flexilis var. *flexilis*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) B2ab				
基準 A: —	基準 B: VU	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
B2. 生育地面積が 2000 km ² 未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。				
a) 生育地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。				
【地点数】 10 地点以下				
b) 出現範囲、生育地面積、生育地の質、生育地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。				
【判断理由】				
主に防災、水利、漁業、稲作を目的とした湖沼、ため池を生育地としており、営農形態の変化や水害対策によるため池の放棄、埋め立てなど、生育に適した環境が減少している。				
評価分科会： 藻類分科会				

概要

本変種は日本では沖縄県以外全域に分布する。1960 年代以降、生育可能な水環境が減少しており、健全な個体群も減少傾向にあると考えられる。

基礎情報

【形態】

雌雄同株で体長は 30 cm から時には 1 m にも達する。結実枝と不結実枝は同形。輪生枝は 1 回分枝。最終枝は 1 細胞性で伸長し、終端は鋭く尖る。雌雄両器は輪生枝の節部に生じる。卵胞子は暗赤褐色から黒色で、楕円体、螺旋縁は 4~7 本。卵胞子膜は平滑状ないし粗い突起または顆粒がある。

【生活史】

主に初夏から秋にかけて繁茂する。

【生育環境】

主にため池、湖沼に生育する。

生育環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】ため池・池沼, 湖・ダム湖	【陸域_平地部】ため池・池沼, 潟・湖・ダム湖
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域, (4) 河川・湿地地域	

【分布域】

世界各地。日本では沖縄県を除く各地に生育する。

現在の生育状況

【分布域の現況】

詳細については不明だが、現在、少なくとも神奈川県、山梨県、長野県、兵庫県、広島県、愛媛県において、植物体として生育、あるいは散布体として存在していると考えられる。また、過去に生育の記録がある地点において散布体として存在していると考えられ、生育条件が整った場合、集団が再生する可能性が考えられる

【生育地の現況】

1960 年代以降、生育可能な水環境が減少しており、健全な個体群も減少傾向にあると考えられる。

【個体数の現況】

詳細については不明。

存続を脅かす要因

水環境の悪化、人為的な管理の減少、近年の農薬の使用などによって消滅している可能性が高い。

要因の区分：	(過去)	水質汚濁, 農薬汚染/化学物質汚染, 管理放棄
	(現在)	水質汚濁, 農薬汚染/化学物質汚染, 管理放棄

特記事項

室内培養など、域外保全が実施されている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒメフラスコモ	<i>Nitella flexilis</i> (L.) C.Agardh var. <i>flexilis</i>	CR+EN
第4次 2019:	ヒメフラスコモ	<i>Nitella flexilis</i> (L.) C.Agardh var. <i>flexilis</i>	CR+EN
第4次 2018:	ヒメフラスコモ	<i>Nitella flexilis</i> (L.) C.Agardh var. <i>flexilis</i>	CR+EN
第4次 2017:	ヒメフラスコモ	<i>Nitella flexilis</i> (L.) C.Agardh var. <i>flexilis</i>	CR+EN
第4次 2015:	ヒメフラスコモ	<i>Nitella flexilis</i> (L.) C.Agardh var. <i>flexilis</i>	CR+EN
第4次:	ヒメフラスコモ	<i>Nitella flexilis</i> (L.) C.Agardh var. <i>flexilis</i>	CR+EN
第3次:	ヒメフラスコモ	<i>Nitella flexilis</i> (Linnaeus) C. Agardh var. <i>flexilis</i>	CR+EN
第2次:	ヒメフラスコモ	<i>Nitella flexilis</i> (Linnaeus) Agardh var. <i>flexilis</i>	CR+EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

青森県[要調査野生生物（Dランク）] 秋田県[準絶滅危惧種（NT）] 栃木県[絶滅危惧Ⅰ類（Aランク）] 埼玉県[絶滅危惧Ⅰ類(CE)] 千葉県[最重要・重要保護生物（A-B）] 東京都（本土部）[本土部：情報不足（DD）] 神奈川県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 福井県[県域絶滅危惧Ⅰ類] 長野県[絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)] 京都府[要注目種] 兵庫県[Aランク] 広島県[準絶滅危惧（NT）] 愛媛県[絶滅危惧Ⅱ類（VU）] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 今堀宏三, 1954. 日本産輪藻類総説. 金沢大学. 234pp.
- 今堀宏三・加崎英男, 1977. 輪藻類. 広瀬弘幸・山岸高旺（編）, 日本淡水藻類図鑑, pp. 761-829. 内田老鶴圃, 東京.
- Kasaki, H., 1964. The Charophyta from the lakes of Japan. J. Hattori Bot. Lab., 27: 215-314.
- Sakayama, H., Kai, A., Nishiyama, M., Watanabe, M. M., Kato, S., Ito, M., Nozaki, H. and Kawai, H., 2015. Taxonomy, morphology and genetic variation of *Nitella flexilis* var. *bifurcata* (Charales, Characeae) from Japan. Phycological Research 63: 159-166.
- Wood, R. D., 1965. Monograph of the Characeae. In: R. D. Wood and K. Imahori (eds.), A revision of the Characeae, vol. 1, pp. 1-904. J. Cramer, Weinheim.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Nitella flexilis var. *flexilis* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Nitella flexilis* var. *flexilis* is listed as VU under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 2,000 km², and estimate indicating at least two of a-c:

- a. Severely fragmented or known to exist at only a single location.
- b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:
 - (i) extent of occurrence
 - (ii) area of occupancy
 - (iii) area, extent and/or quality of habitat
 - (iv) number of locations or subpopulations
 - (v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area Low-altitude area】 Reservoir/Pond, Lake/Dam 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Reservoir/Pond, Lagoon/Lake/Dam
Threat types:	Water pollution, Pesticide/Toxic chemical pollution, Abandonment of management
Law designation status for conservation	—

執筆者: 坂山英俊 (神戸大学)
Author: Hidetoshi Sakayama

公表年月: 2025 年 3 月